

# 第20回日本レクリエーション学会 大会開催にあたって

日本レクリエーション学会

会長 浅田 隆 夫

今日、科学技術の革新により情報化・国際化が一段と進み、これに伴って、自由時間の増大とともに物心両面の「ゆとり」が志向され、しかも、一人ひとりのライフスタイルにマッチした生活文化のあり方が希求されるようになりました。

しかし、これに応える産業部門の振興や環境・施設の整備も、人材養成やプログラム開発も、行政施策の遅れもあって、かなりの社会的遅滞がみられます。それだけに学者・研究者や研究者集団の援助が求められているといえましょう。

また、臨教審の答申に基づき、文部省も生涯教育局を設け、来たるべき生涯学習社会を志向して生涯学習振興法を作成、環境・施設の充実や人材養成をはじめ地域の生活文化の活性化を意図しています。

本学会は、発足以来27年目に当たり学会大会という名称では20周年という節目を迎えました。

このような内外の状況を踏まえながら、本年度は、会員の個人発表の他、基調講演やシンポジウムのテーマを設定し、斯界の名士をお迎えして盛大に行うことになりました。

会員のみなさんはもちろん、会員以外の方々のご参加を心から期待しております。

# 日本レクリエーション学会

## 第20回大会開催要領

1. 主催 日本レクリエーション学会
2. 主管 日本レクリエーション学会第20回大会実行委員会
3. 期間 平成2年11月10日(土)・11日(日)
4. 会場 明治大学(大会会館)  
〒101 千代田区神田駿河台1-1 ☎ 03-296-4545
5. 日程  
11月10日(土)  
13:00 受付開始  
14:00  
} 基調講演  
15:20  
15:40  
} シンポジウム  
17:40  
18:00  
} 懇親会  
20:00  
11月11日(日)  
8:30 受付開始  
9:00  
} 研究発表  
11:40  
12:00 理事会  
13:00 総会  
14:00  
} 研究発表  
16:00 終了
6. 研究発表 レクリエーション研究第20回学会大会発表論文集として掲載
7. 実行委員会 〒168 杉並区永福1-9-1 明治大学和泉校舎 保健体育研究室内  
委員長 黒田 信寛  
委員 寺島 善一 星野 敏男

# 第20回日本レクリエーション学会 大会本部企画

## ◎ 大会テーマ 『生涯学習時代のレジャー・レクリエーション』

“人生80年時代をいかに生きるか”。今この問題が、日本人一人ひとりの課題となっ  
ています。人生80年は、生涯生活時間に換算して70万時間。このうち生涯の労働時間が1割にまで  
短縮し、代わって自由時間が3割にまで拡大する見通しです。すなわち、これまでの仕事人  
生に加えて、レジャー・レクリエーションの人生を充実して生きることが重要な課題となっ  
て来ます。

学問の分野においても、行政の分野においても、この人生80年時代に向かって様々なプロジ  
ェクトを展開していますが、日本レクリエーション学会でも20周年を記念し、この問題に  
取り組んでみました。

## ◎ 基調講演 『生活文化としてのレジャー・レクリエーション』

講 師：小塩 節 氏 中央大学 教授

司 会：徳久 球雄 氏 青山学院大学 教授（学会常任理事）

小塩先生は2年間にわたり、経済企画庁国民生活審議会の余暇・生活文化部会座長を務め  
られ、この度、人生80年時代の価値観・ライフスタイル・社会システムの在り方についてと  
りまとめをなさいました。これらのプロセスを通して、先生御自身が、これからの時代の生  
活と社会をどのように感じとられたのか、語っていただきます。

## ◎ シンポジウム 『学習社会におけるレジャー・レクリエーション』

パネラー：稲垣 良典 氏 九州大学 教授

佐藤 敏夫 氏 東京神学大学 教授

野中ともよ 氏 中京女子大学 客員教授

司 会：松田 義幸 氏 筑波大学 助教授（学会常任理事）

我が国では、レジャー・レクリエーションがまだまだ周辺的な問題と受けとめられてい  
ますが、もともとは人生の中心的問題、幸福の問題としてとらえられていたのです。そこで  
シンポジウムでは基調講演を受け、日常の具体的生活の次元でそれをいかに実現すべきか  
を議論してみたいと思います。

稲垣先生は、アリストテレス、トマス・アクィナスの研究で知られ、レジャー哲学の在り  
方を示したヨゼフ・ピーパーと親しくこの問題を研究されました。そしてこれからの社会を、  
学習社会として構想されています。

佐藤先生は、「レジャーの神学」を著わされ、自由時間の多い人生をいかに充実して生き  
るべきか、この問題を思索し続けられています。中でも自由学芸とレジャーの問題に関心を  
寄せられています。

野中先生は、国民生活審議会の余暇・生活文化部会委員として、レジャー・レクリエーシ  
ョンの哲学・プログラムを、私達の具体的な生活の次元でいかに実現すべきかユニークな提  
案をされています。